

# 消防大学校だより

## NBCコースにおける教育訓練

消防大学校では、今年度で14回目となる緊急消防援助隊教育科NBCコースを令和7年1月に約3週間の日程で開催しました（令和7年1月9日～1月30日）。

緊急消防援助隊教育科NBCコースは、緊急消防援助隊のNBC災害要員等に対し、NBC災害対応業務に必要な知識及び能力を修得させるための教育課程となっており、今後開催予定の「2025年大阪・関西万博」など、国際的大規模イベント開催に向けてNBC等大規模テロ災害における対応能力を充実、向上をさせることも教育の目的としています。

このコースは、講義と訓練でカリキュラムが構成しています。

講義にあっては、安全管理、現場指揮、広域応援対策、国民保護制度などを消防庁職員から学ぶとともに、C災害対応、B災害対応、対テロ対策、化学テロ災害対応、NBC災害時における医療対策などは専門の外部講師陣から学びます。

近年の国際的な知見や大規模イベント等を通じて蓄積された経験や教訓等を踏まえ、NBC災害への対応能力を更に高度化させることを目的に、「消防機関におけるNBC災害時の対応能力の高度化に関する検討会」が令和5年度に開催され、その報告内容を踏まえ「化学災害又は生物災害時における消防機関が行う活動マニュアル」が改正されました。この検討会の委員の方を中心に講師としてお招きし、改正内容の解説等を含めた充実した講義を実施しました。

訓練では、教育支援隊として東京消防庁、横浜市消防局、川崎市消防局及び千葉市消防局にご協力いただき実働訓練を実施しました。その中で化学防護服、各種検知資機材及び救出資機材を使つてのNBC災害の実践的対応訓練も行いました。

災害状況を想定した訓練では、消防大学校の本館や寮の地下など建物内部での発災を想定した訓練を行いました。化学防護服を着装して階段の昇り降りを行い立体的な救出活動なども行い、実際の災害と同様の負荷をかけ、活動の困難性を再現する等の工夫を凝らしました。



総合訓練（ダーティボム想定）

NBC災害が発生した場合は、傷病者が多数になることが予測されております。そのため、NBC災害は発生場所の消防本部だけではなく、広域応援として、NBC即応部隊及び緊急消防援助隊が出動し対応します。このような災害時には、警察、自衛隊など他機関との関係が欠かせません。陸上自衛隊化学学校における校外研修をはじめ、防衛省、警察庁から講師を招き各省庁の実態を把握することで関係強化につなげています。

さらに、地下鉄サリン事件から30年が経過しますが、テロ行為によって神経剤が使用された場合、多数の傷病者の発生が予想されます。傷病者の救命には、早期に神経剤解毒剤の自動注射を打つ行為が必要であり、本コースにおいてもDMATの医師等を招き研修を実施していただきました。



多数傷病者対応訓練（C災害想定）

研修を終えた学生からは「NBC災害、CBRNE災害における基本的な考え方、活動要領、最新の知見を各分野の専門家から学ぶことができた大変有意義な研修でした。」などの感想もいただきました。

国民の皆様が安心して暮らせる社会を守るために、緊急消防援助隊教育科NBCコースは時代の変化に応じた教育プログラムとなっています。

## 女性活躍推進コースにおける教育訓練

消防大学校では、女性活躍推進コース第9回を開催しました（令和6年12月12日～12月20日）。

このコースは、女性消防吏員で消防司令補及び消防士長の階級にある幹部候補生に対して、キャリア形成を支援し、職域拡大等を目的とした知識及び能力を修得させることを目的に実施しています。全国の消防本部から48名の学生が、入校前のeラーニングによる個別学習を経て、2日間のリモート講義と5日間の全寮制の集合教育を受講しました。

リモート講義では、最新の消防行政の動向、リーダー育成や人事管理など幹部職員として必要な知識に加え、現場指揮と安全管理では、事故事例から現場指揮に必要な安全管理の知識を学びました。

集合教育では、部下指導のための教育技法やベップトーク、説得技法等の講義を受講しました。

その他、職域拡大として緊急消防援助隊派遣の講義では引率した隊長と活動した隊員による双方の視点に立った課題や活動状況について受講しました。

課題研究発表では、各自与えられたテーマについて、事前に行ってきた課題研究の成果をグループごとに発表し、各本部での課題や今後の解決策等について、情報共有しながら活発な意見交換を行うとともに、先輩女性消防吏員のコメンテーターから様々なアドバイスをいただきました。

また、警防面の更なるスキルアップを目的とした実技訓練も実施しました。

「指揮訓練Ⅰ」では、指揮隊運用の図上訓練を繰り返し実施し、住宅火災時の基本的指揮要領を学びました。その後、「指揮訓練Ⅱ」の指揮シミュレーション訓練では、指揮隊と活動部隊との情報共有や部隊連携の重要性などを学び、現場を統括する判断力・対応力を養い、現場指揮技術の向上を図りました。



指揮シミュレーション訓練の様子

「火災現場指揮」では、火災現場における活動を想定し、現場と同様の熱、煙の状況をつくり、中性帯やロールオーバー等の火災性状を観察するとともに、注水による熱環境の変化や脱出時間を確保するための注水技術を学び、現場の安全管理能力の向上を図りました。



実火災体験型訓練の様子

本コースで、幹部として必要となる知識及び技術の習得を行うとともに、全国の女性消防吏員の仲間と共通課題に取り組み、今後のキャリア形成等について情報共有することで、消防職員としてだけでなく、個人としての成長と自己実現への意識の高揚になったと考えられます。

学生からは、「コースを受講しなければ学ぶことができない内容で、業務に直結するため非常に有益だと感じました。」「消防職員としての専門知識や幹部職員としての知識を、今のタイミングで学ぶことができたのは、キャリアアップの自信につながりました」との声がありました。

今後は、強い絆で結ばれた全国の仲間達と、研修で得た知識及び技術を活かして、各消防本部における課題解決に積極的に取り組み、自らがロールモデルであることを忘れず、すべての消防職員が活躍できる組織が実現していくことを期待します。

消防大学校では、各学科、コースともに定員の5%を女性消防吏員の優先枠として設定し、女性の入校を推進しています。女性消防吏員の皆様の消防大学校への積極的な入校をお待ちしております。

### 問合せ先

消防大学校教務部  
TEL：0422-46-1712